

みんなのかんきょう

第42号 平成17年3月発行



【主な内容】

[ふるさとの環境自慢](#)

大飯町

特集

街路樹を知ろう 環境教室

私達の活動紹介

福井リコー株式会社・

みくにまち豊かな海の森づくり実行委員会

読者の窓

イベント情報

その他

表紙写真／オシドリ

撮影／谷口 真栄



ふるさとの環境自慢 大飯町



赤礁崎遊歩道

大飯町は、海あり、山ありと豊かな自然に恵まれ、歴史と文化に育まれた町です。町内には佐分利川が緩やかに流れ、初夏には町木であるツツジが山々で鮮やかに咲き誇るなど四季折々に様々な景色を見ることが出来るのも魅力の一つです。また、きのこ梅を特産品としており、しいたけやマッシュルーム、梅をたっぷり使った梅ゼリーなど自然の味覚を味わうこともできます。

大島には、赤礁崎を1周する約3キロのコースの赤礁崎遊歩道があり、自然豊かな風景を楽しみながら1時間程度の散歩が楽しめます。花々が咲き乱れるあかぐり苑地をスタートし、散歩道を歩き始めると、目の前には海を挟んで小浜側の内外海半島を望みながら歩きます。山から海へと崩れて閑散と散らばっている巨岩が遊歩道からの景色を引き立てます。山すそづたいにコース

を3分の2ほど進むと、散歩道は山へ向かい、景色は海から森へと一変します。海と森、自然を凝縮したこの散歩道をぜひ一度歩いてみて下さい。

きのこのテーマパーク「きのこの森」は、雄大な自然の中で子どもから大人まで家族みんなが揃って楽しむことができます。



きのこの森

園内は遊び・ふれあい・いきがいづくりと3つのゾーンに分かれており幅広い体験ができます。高さが30mもある「きのこタワー」は側面がシースルーになっており、公園全体と周囲の山々が一望できる展望施設になっているほか、きのこの知識が広がる「きのこものしり館」、自作の陶芸作品にも挑戦できる「陶芸館」、自然の山なみを生かし、きのこ刈りや森林浴などが楽しめる散策コース「きのこのロード」など、様々な場で自然と触れ合ってみてはいかがでしょうか。



ナチュラルミネラルウォーター
「滝水ひめ」

父小区にある「不動の滝」の地下水を利用したナチュラルミネラルウォーター「滝水ひめ」が昨年の夏に誕生しました。

水の名前は、その昔天智天皇(661～71)のころ、政変を逃れ大内から御くだりになってこの大飯町に住んでおられたという伝説のお姫様「滝水姫(たきみひめ)」の名から取ったものです。「滝水姫」が住んでおられた「滝水千軒(たきびせんげん)」は現在の大飯町の母体となった集落と言われています。

この伝説にちなんで名付けられた若狭おおいの天然水「滝水ひめ」は、町の歴史の深さを物語る

味わい深い水です。

自然がどんどん失われていく今の世の中ですが、ふるさとはいつまでも自然豊かな所であってほしいものです。

♪ふるさとの環境自慢募集中！！♪

みなさんの故郷自慢で1ページをかざりませんか。1,000字程度 of 原稿に地図・写真を添付して応募してください。場所の紹介だけでも結構です。採用された方には記念品をお送りします。



特集

街路樹を知ろう 環境教育

街路樹って何だろう？

道路に沿って植えてある木を街路樹といいますが、日本でそれを行政施策として取り上げたのは奈良時代までさかのぼり、街道並木の整備について発せられた「応畿内七道諸国駅路両辺菓樹事(759年)」という法令であるといわれています。これは、中国(当時は

唐)の制度を見聞した留学僧の進言に依るものとされ、道を往来する人々の安全性や快適性を確保するためのものでした。その後、江戸時代には江戸と各地を結ぶ街道の整備が進み、その一環としてマツやスギが植えられました。日光の杉並木などは現存している好例といえるでしょう。

大きな街道筋や社寺の参道を対象に考えられていた街路樹が、市街地を中心に導入されるようになったのは明治に入ってからのことです。有名な「銀座のヤナギ」は明治12、13年頃植栽されたものですが、歩道・車道が分類された道路に設けられた近代的街路樹の幕開けといえます。(現在、銀座地区にはヤナギの他にエンジュ、ケヤキ、トチノキ、ハナミズキなど様々な樹々が植えられています)。

現代の街路樹は標識や街灯と同じ「道路の附属物」として位置付けられています(道路法第2条第2項第2号)。そして昨年度、福井県が発行した緑化マニュアル(街路樹編)において、樹木の植栽地としての歩道や植樹帯の基準、樹木の植え方や手入れ方法などが示されています。例えば道路には確保すべき空間があり(歩道側は高さ2.5m、車道側は高さ4.5mが一般的)、それより下には樹木の枝がかからないように努めなければなりません。

また、樹木を植えるときは、その地域に応じた樹種の選定が望まれ、このことが地域性のある街の形成につながります。福井においては、夏には豊かな緑陰を提供するとともに、冬には暖かい陽射しを確保できる落葉樹が、季節感も多様なことから望ましいといえます。

私たちが暮らす街の街路樹は、数々の時代の変遷を経て現代に至っています。樹木のもつ機能的なほたらき他に歩いて楽しめる道の重要な要素として、そして個性的な街並みのシンボルとして、街路樹は豊かで魅力的な空間づくりに欠かせないものとして注目されています。

街路樹を植える目的

街路樹を植える目的として以下の2つがあります。

- 1 地域住民の快適な生活環境を確保すること。
- 2 安全で快適な道路交通環境の整備や良好な道路景観の形成を図ること。

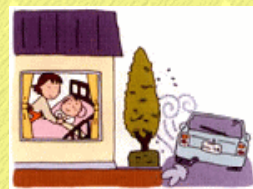
道路緑化のはたらき

街路樹は複数のはたらきを有するものであり、これらのはたらきが総合的に発揮されるよう努めることによって、親しみのある都市空間を創出することができます。街路樹のはたらきとして以下の6つがあります。



(1)景観を向上させます

目に染みる新緑や鮮やかな紅葉、美しい花々は四季の移り変わりを知らせるだけでなく、都市に野鳥や昆虫を呼び込み、私たちを楽しませてくれます。



(2)生活の環境を守ります

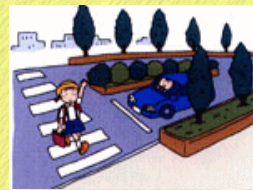
街の中で二酸化炭素を吸収して新鮮な酸素を放出し、空気に湿り気を与え、自動車排気ガスの汚れを吸い取ってくれます。

す。



(3)日陰をつくります

道を行く人を夏の強い日差しから守り、直射日光による路面温度の上昇や照り返しを防ぎます。



(4)歩行者や自動車などの交通安全を確保します

車のライトをさえぎったり、ドライバーの視線を誘導して道路の走行方向を知らせたりします。



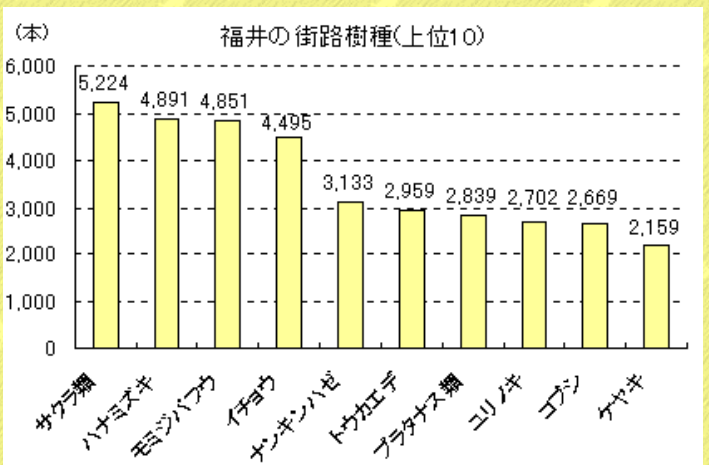
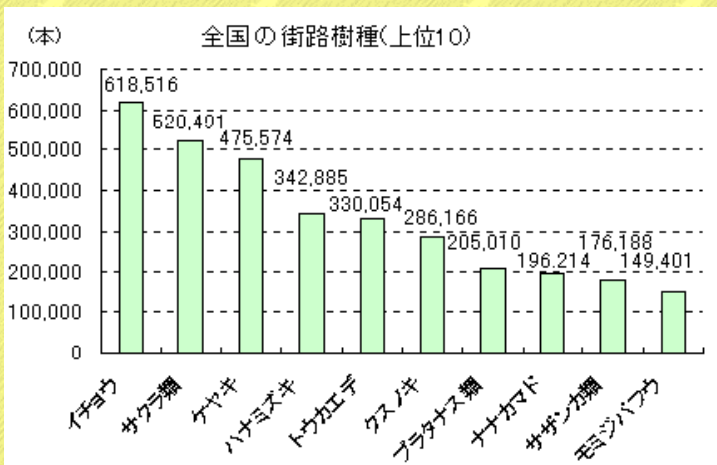
(5)防災に役立ちます

風に勢いを弱めることで、砂・吹雪の吹き付けから通行者を守り、視界を確保します。また、火災の延焼も防止します。このことは、震災や火災の

(6)人の心に安らぎを与えます

殺伐とした都市空間に生命感を与え、その人工性を和らげます。

状況下において、街路樹が炎を遮断し、人々の避難路を確保したことで実証されています。



データで見る街路樹

福井県の街路樹種と全国の街路樹種を比較すると、福井県の場合、サクラやハナミズキなど花木が多いのが特徴です。

自然教育の場としての街路樹

平成14年度(2002年度)の新しい学習指導要領では、小学3年生以上において体験学習を重視した「総合的な学習の時間」が新設されました。このことにより、「自然観察」などの身近な環境を調べる機会が増えることになりました。



県が開いた
街路樹観察会の様子
(H16.11.6)



街路樹ガイド コブシ

〔Magnolia kobus モクレン科〕

落葉高木、高さ8m～10m。冬は冬芽が大きいのでよく目立つ。サクラの咲く頃、樹冠一面の小枝の先端に、葉に先立ち芳香のある6弁の白い花を咲かせる。幹は直立し、樹皮は灰白色で枝張り大。葉は互生し倒卵形で長さ3～15cm、幅3～8cmあり幅広い。野山では、春のさきがけをつとめるように咲くことから迎春花とも呼ばれる。果実は、数個から十数個の種子が袋状に皮で包み込まれ、表面が凹凸していて屈曲している。この形が人の握った拳(こぶし)に似ていることからこの樹の名が付けられた。

の形が人の握った拳(こぶし)に似ていることからこの樹の名が付けられた。



ハナミズキ【別名アメリカヤマボウシ】

〔Cornus florida ミズキ科〕

北米を原産地とする落葉高木、高さ5～7m。花は4月に入ってから枝の先端に大型で花弁のように見えるのは総苞片で基本種は白色、中心に黄緑色の花をつける。赤花種や斑入り葉種など多くの園芸品種がある。幹は直立し樹皮は灰褐色で縦に溝がある。葉は対生、有柄で葉身は楕円形または卵円形で長さ8cm～10cm。秋の紅葉やその後に残る真っ赤な果実も観賞価値が高いため年間を通して楽しめる。明治中期に渡来、大正4年に東京都(当時は市)が送ったサクラの返礼として寄贈され、その後各地で植栽されている。

で植栽されている。



ソメイヨシノ

〔Prunus yedoensis Matsum バラ科〕

日本のサクラを代表する品種で落葉高木、高さ7～15m。江戸の染井村(現在の東京都豊島区駒込付近)の植木屋が明治初年ごろから売り出し、全国に広まったのでこの名前がある。オオシマザクラとエドヒガンの雑種で、若枝、葉、花部に毛があり、葉の出る前に開花する性質をエドヒガンからうけつぎ一重

の大きな花が咲くのはオオシマザクラの形質である。エドヒガンより大きな花がいっぱい咲くのではなやかである。樹皮は暗灰色。葉は互生し、広い倒卵形、長さ7～10cmで先がとがり、縁に重きよ歯があり、裏面は淡緑色で葉柄とともに細毛がある。蜜腺は葉柄上部にある。花は4月ごろ、葉に先立って淡紅白色、径約4cmの5弁花を散形状に2～5個開く。多くの人々の心を魅了する樹木であるが、病害虫の被害が多い。樹令は短く20～40年までが最盛期で50～60年が限度とされる。

終わりに

街路樹は、永い時間と多くの人達の努力が積み重なってこそ、はじめてその効果を表すものです。「街路樹が美しいとその地域の人達の心も美しい」とも言われ、その地域の文化水準がうかがえます。それは植物(街路樹)の良好な育成・維持管理の成否は、地域の人達にいかにか愛着を持って見守られ育てられているか否かにかかっているからです。育成管理について可能な範囲で、道路管理者が地域住民や企業・団体等の参加・協力を広く呼びかけるとともに、それを前提とした計画段階における地域住民の参加を得て、身近な緑地空間の創出を図ることが重要です。

福井県雪対策・建設技術研究所

環境・建設技術研究グループ技師 久保 光

参考文献

- 1)緑化マニュアル(街路樹編) 福井県雪対策・建設技術研究所発行
- 2)街路樹マップ(福井駅周辺) 福井県雪対策・建設技術研究所発行

私達の活動紹介

福井リコー株式会社

私達、福井リコーは環境を守ることを企業使命と考え、環境保全を経営の重要な柱として捉えています。私達は規制などに対応してきた「環境対応」時代、自発的に高い目標を掲げて行動する「環境保全」の時代を超えて、経済的にもより効率の高い環境活動を実現する「環境経営」を目指して、活動を進めています。また、社員一人一人が主体的に取り組む環境ボランティア活動などの社会貢献にも積極的に取り組んでおり、これらの活動を通じて、身近なところから環境問題と循環型社会の実現に貢献していきたいと考えています。

具体的な取り組み

環境にやさしいエコオフィス活動「フレモ」

Fukui Ricoh electronic&ecology Model Office → FreMo5S運動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)などの推進で、きれいで明るく効率の良いオフィスに変身しました。

5Sを推進しよう 整理のコツ

5Sとは？
 1S 整理
 2S 整頓
 3S 清掃
 4S 清潔
 5S 躰

	必要度合(必要頻度)	保存方法(個別)
少ない	1年に1度も使わないもの 6ヶ月から1年間に1度くらい使うもの	捨てる 遠くへ置く
普通	2ヶ月以上6ヶ月以内に1度くらい使うもの 1ヵ月以内に使うもの	職場内へまとめて置く
多い	週に1度は使うもの 毎日使うもの 毎時間使うもの	作業域内や身につける



毎月、14日は地域クリーンに協力

平成13年以来、毎月14日早朝は、全社員が自主的に活動参加をし、会社周辺の道路のごみ拾いや草刈りなどを実施しています。

お客様参加の循環型社会の形成を目指して

平成15年に、販売したコピー用紙の対応策として、オフィス古紙の回収リサイクルの仕組み「グリーンサークル」を立ち上げています。

【会員数 約800社】。

お問合せは、福井リコー(株)グリーンサークル
 (0776-22-2332)へ

みくにまち 豊かな海の森づくり実行委員会

豊かな海の森づくり

様々な原因で荒れた三国の海に連なる山々を、栄養たっぷりの水とおいしい空気を提供してくれる豊かな山に再生すべく、勉強会を開いたり、どんぐり系の広葉樹を中心とした苗木を植えたり、下草を刈ったりしています。

委員会が設立されて3年。約1200本の苗木を植えてきました。植樹祭の回を重ねるごとに参加者も増え、現在は、雄島漁港を中心に会員数257名となり、木を植える意味も広く理解して下さるようになりました。




これからは、地上の森の大切さは言うまでもなく、去年の10月に岐阜県御嵩町より柳川町長を招いての講演会で得たものを活用しながら、今、全国でも問題になっている地下の保全についても目を向けていきたいと思っています。


この森づくりを通して、豊かな山の再生が豊かな海を作るという循環の大切さを知り、大人も子どもも未来の希望に向かって汗を流しその過程で、森の生き物や草木に触れることにより、やさしさの心が育っていくものだと思います。


未来の子供達のために、何を残していくのが大切かを世界中の人々が木を植えながら考えていくことを願っています。


みくにまち 豊かな海の森づくり実行委員会事務所 磯野 清美


 **読者の窓**

 森林の動きとして、住宅建設に使う機材の供給のほかに、水源かん養や土砂の流出防止、保健休養の場の提供など、いくつもある事を貴誌で初めて知りました。災害多発の我国、そして福井県。森林保護の大切さを改めて痛感しました。(敦賀市 会社員 女性)

 車の排気ガスや、クーラー、冷蔵庫のフロンガス等で、オゾン層破壊が進み地球温暖化が進行しているとは知っていましたが、電気やストーブの石油までもが…とびっくりしました。省エネルギーの大切さを認識しなおしました。(福井市 アルバイト 女性)

 最近、山奥に住む動物達が里に出没し被害を及ぼしている現状がありますが、何らかの関係があると思います。お互いに共存しあえる良い環境を取り戻せたらと願います。(高浜町 非常勤講師 女性)

 杉の木は根が浅く昨年の豪雨には弱かった、と聞きましたが、急斜面にも根を張り崩壊防止につながる木があれば、と思います。(鯖江市 公務員 女性)

 油坂峠の蝶の水、興味をもって読みました。先人達の御苦労がしのばれます。山が好きな私としては、森林、特にブナなどが広がればいいと思いますし、大切にしたいと思っています。(武生市 主婦 女性)

「環境パートナーシップ交流会」を開催しました。

今日の様々な環境問題に適切に対応するためには、県民、事業者、NPO、行政などが、それぞれの特性を活かしながら、パートナーシップを築き、共に手を携えて環境保全活動を推進していく必要があります。

そこで、環境保全活動に取り組む個人や団体等の活動の輪の拡大を図るため、情報交換や相互交流の場である「環境パートナーシップ交流会」を12月19日(日)に福井県民会館にて開催しました。

第1会場

テーマ	地域環境保全活動－活動を広げる、つなぐ－
コーディネーター	NOP法人 エコプランふくい理事 吉川 守秋さん
参加者	13名
概要	地域における環境保全活動の課題や解決策についてや、地域での地球温暖化防止活動についての意見交換が行われました。



第2会場

テーマ	環境学習－気づきから行動へ－
コーディネーター	アルマス・バイオコスモス研究所代表 水上 聡子さん
参加者	10名
概要	「環境学習」をテーマに日ごろの活動の成果や問題点、解決のためのヒントなどについて、ワークショップ形式で意見交換が行われました。



第3会場

テーマ	エコライフ－どこでもできる、環境にやさしくらし－
コーディネーター	地球温暖化防止活動推進員 中野 佐知子さん
参加者	13名
概要	エコライフについて、具体的な取り組み方法の紹介や、取り組みを地域に広めるための手法等について意見交換が行われました。



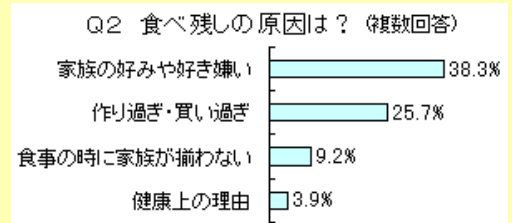
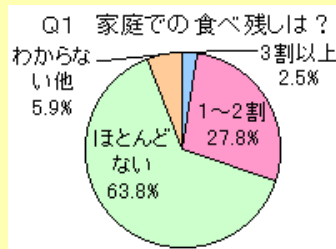
食べ残しについて考えよう。

皆さんは、家で食事をする時、つい買い過ぎたり作りすぎたりしてしまい、食べきれなかった経験はありませんか？

このたび、福井県では、県民の皆さんに御協力いただき、「食べ残し」について調査を行いました。

これによると、約3割の家庭で食べ残しがあり、その原因は、第1位が「家族の好み・好き嫌い」、第2位が「作り過ぎ・買い過ぎ」でした。子供の食べ残しが多いという調査結果も出ました。

「食べ残し」は、毎日のライフスタイルを少し見直すだけで減らしていくことができます。家庭での食べ残しを減らすためにチェックリストを御用意いたしましたので、御活用ください。



食べ残しを減らすチェックリスト

- 買い過ぎをなくす。
- 作り過ぎをなくす。
- 食事の前に間食をしない。
- 余ったものはほかの料理にアレンジする。
- 作ってくれた人への感謝やマナー、食べ物の大切さを話し合う。

ご意見・お問合せ
福井県廃棄物対策課 TEL0776-20-0382



ふくい環境シンポジウムを開催します！

- 1 趣旨** 環境ふくい推進協議会では、平成6年10月の創立以来、環境保全活動の普及とパートナーシップの拡大を図るため、
- 2 日時** 平成17年3月27日(日)
- 3 会場** ユー・アイふくい多目的ホール(福井市下六条町14-1)
- 4 内容** 環境ふくい推進協議会会長表彰 表彰式 (11:00～11:20)
地域環境活動実践者インタビュー (11:20～12:00)
地球環境フォーラムinふくい (13:00～16:00)



平成17年

3月27日(日)13:00～16:00 入場無料

ユー・アイ福井 多目的ホール(福井市下六条町14-1)

(生活学習館)

基調講演「地球温暖化と異常気象」講師:沖 大幹氏(東京大学生産技術研究所 助教授)

パネルディスカッション「災害から地球温暖化を考える」

主催福井県  主催環境ふくい推進協議会


お申し込み/問い合わせ先…福井県福祉環境部環境政策課

TEL:0776-20-0301 FAX:0776-20-0634

E-mail:kankyuu@pref.fukui.lg.jp



うれしいニュースです

 河和田のオシドリは、福井豪雨にも負けずに元気に暮らしています。

表紙の写真は、田んぼで採餌するオシドリで、ペアが成立して産卵に入る寸前の様子です。河和田地区(鯖江市)では、1年を通じてオシドリを観察することが出来ます。2004年は7グループ41羽のヒナを確認しました。今も、福井豪雨をたくましく乗り越えたオシドリ(40羽=2005年2月現在)と合うことが出来ます。この地区では繁殖出来る充分な環境が残っています。

環境ふくい推進協議会 会員募集中

環境ふくい推進協議会では、随時会員を募集しています。

環境問題に関心のある方、本紙「みんなのかんきょう」を毎号読みたい方、当協議会主催行事等の情報を知りたい方は、ぜひご入会ください。お待ちしております！

《年会費》個人会員:500円

企業会員:10,000円(1口以上何口でも可)

団体会員:無料

《申込み・問合せ先》

環境ふくい推進協議会事務局(福井県環境政策課内)

TEL 0776-20-0301

待ちに待った春です！特集の街路樹ガイドでご紹介した花達も見ごろです。お散歩に出かけましょう。そしてあなたの街の街路樹にも目を向けて下さい。春の息吹を感じながらゆっくりと歩くと、いつもの街に新しい発見があるかもしれません。(む)